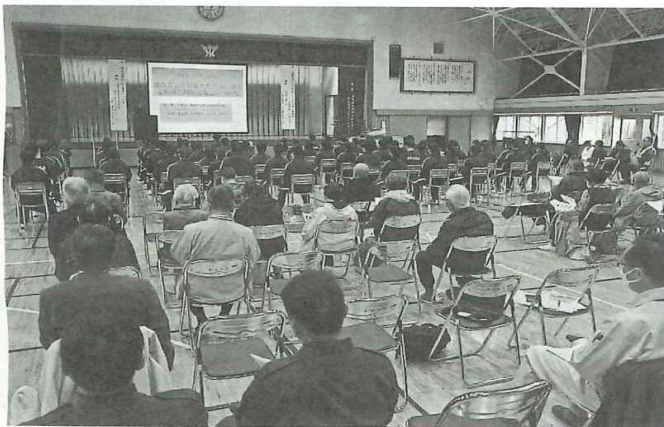


25(R7)10/29(水)
日刊建設青森

迅速な津波避難再認識

県野辺地町
川を愛する会
陸奥湾想定し講演会



陸奥湾で発生する津波のリスクを正しく知り、迅速な避難につなげるための講演会が28日、県立野辺地高校で開かれた。同校生徒や行政関係者、建設関連業者、一般市民

ら約150人が参加。災害を「自分ごと」と捉え命を守るために普段から備える大切さを再認識した。同講演会は8回目で、今回は県、野辺地町、あ

津波避難への意識を新たにした講演会
おもりの川を愛する会(会長・佐々木幹夫、八戸工業大学名誉教授)の3者が主催し、日本技術士会青森県支部が後援。同町で開催するのは今回が初めてで、町の防災訓練の環境として開か

れた。

講演会では、佐々木名誉教授が講師となり、これまでの調査や検討成果に基づき地震と津波のメカニズムについて解説。

太平洋側で海溝型地震が発生した場合、161分後に最大4・5メートルの津波が野辺地町を襲う可能性があると述べ「人は30秒の波で動けなくなり、1秒で死亡する。避難場所にたどり着く経路の確認と訓練を日頃から心掛けてほしい」と呼びかけた。

また、県河川砂防課の藤森由美子主幹が▽最大クラスの津波から人命を守る▽ハード・ソフトの施策を総動員させる多重防御―など国の基本指針について説明。津波が野辺地町を飲み込む様子をアニメーションとCG動画で紹介し「津波災害を

より身近により自分のこととして捉えて主体的な避難行動につなげてほしい」と強調した。(山口聡)